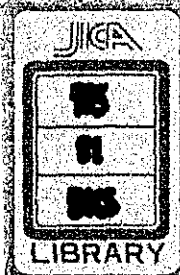


自営用拓移住  
中2トメアス一移住地  
概 要



神戸市鈴合区御幸通8丁目1番6号  
神戸国際会館3階  
国際協力事業団神戸支部  
電話神戸(221)6520番



国際協力事業団

受入 月日 '84. 8. 20	703
	81
登録No. 13172	BKS



創設はブラジル最大のピメント・ド・レーノ(胡椒)の生産地であるトメアスー植民地の開拓30周年記念事業として、昭和34年トメアスー産業組合ならびに有志が発起して今日の柳住地形成を見るに至った。

1. 自然的環境

ブラジル国パラ州トメアスー郡南緯2度30分、西経48度18分

A. 地形

全体平坦、柳住地内クシュー川、イポランガ川横断

B. 地質と土壌

地質第三紀砂岩、粘板岩に属し、ラテライト系肥沃土壌

C. 気候

熱帯性高温多湿、年平均28.3度、年間雨量2,670.8mm、乾期7月~12月、雨期1月~6月

過去3カ年平均

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
気	最高極 °C	35.0	33.5	33.0	33.0	33.0	33.0	35.0	33.5	33.5	34.0	34.5	35.5	35.5
	最低極 °C	21.8	23.5	20.5	20.5	23.5	23.0	21.5	22.0	23.5	23.0	23.0	22.0	20.5
温	平均 °C	28.0	27.9	27.7	28.1	28.4	28.2	27.7	28.4	28.3	28.6	29.3	29.0	28.3
降	雨量mm	40.6	401.8	487.1	479.1	277.3	115.4	45.3	40.2	59.8	15.9	87.6	250.7	2670.8
降	雨日数	15.0	21.7	26.0	26.0	20.7	14.0	8.0	6.0	8.3	4.0	4.0	13.3	67.0
湿	度%	79.0	81.7	86.0	82.7	80.0	78.3	76.7	79.3	77.0	74.3	71.2	77.7	78.7

(註) 気温の最高、最低極は平均でなく、3ヶ年間にあった気温の最高最低極を示す。

D. 植生と林相

全地域原始林、直径40cm~1m以上、樹高40~50mの巨木散在用途一住宅建築、ピメントの支柱(アカプー、マサラニトバー、ミアラータ、フレイジョー等)

## オ、動物

一部毒蛇おる程度、豹、山猫、鹿、山豚、猪等も棲息するが目撃することはあまりない。その他極彩色の鳥類や多類の蝶類。

## 2. 社会的環境

### ア、位置

アマゾン河河口、パラ州の首都ベレン市(約20方、うち日系人約1,600人)の南方、直線距離115km、船で270km(約東京~浜松間) - 約10~15時間、バスで約6時間、総面積25,800ha

### イ、おいたち

1959年アカラ郡より独立、面積5,558km<sup>2</sup>(東京都十埼玉県よりやや少)、郡庁はトメアス一様橋近くにあり。

### ウ、人口

定住者約1.5万人(1972年1月調べ)、うち日系人2,818人約554戸、単身498人(1970年6月1日現在)ピメンタ収穫期季節労働者約1~1.5万人

## エ、社会組織機構

郡長1名 7名の郡会議員で構成(日系人若干を含む)

### (ア)行政組織

トメアス一郡庁、州納税局事務所、トメアス一警察署、パラ州中央警察署管轄下郡内各地区に派出所、初住地内に2名の警官駐在、裁判所、登記所(土地売買契約書、委任状作成、サイン登録、出生婚姻死亡手続等)

### (イ)金融機関

公営-アマゾナス銀行(南米銀行)

### (ロ)法定団体

トメアス一産組(様橋より13km地点)組合員279名(1972年度)、トメアス一文化協会(1966年6月発足、子弟教育の向上、健全娯楽提供目的)  
日本映画は毎週2回邦画各社の2本立て上映

### (ハ)学校

州立小学校6校、所在地-トメアス(5年)、クワトロボッカ(5年)、イロチシカ(5年)、フレド(5年)

第2トメアス<イピランガ (5年)  
 エスペランサ (5年)  
 郡立小学校1校一ブレウ校  
 州立中学校1校 所在地トメアス棧橋近く  
 (日系子弟の高校大学進学率高い)

(オ)保健衛生  
 機 関

トメアス一郡立診療所、トメアス一産業組合  
 病院、連邦マラリア撲滅局トメアス一支所(通称CEM-CIA、  
 DE ER, RADICACAO DA M-  
 ALARIA EM TOMEAÇU)  
 その他各地区にマラリア予防連絡所設置  
 事業団第2トメアス一診療所あり、医師1名  
 看護婦2名常駐し、現地人を含む住民の健康  
 管理に当る。  
 その他、歯科医院2、ラブラトリー1。

オ. 経済流通機構(ベレントメアス一)

(ア)交通運輸

物資船舶輸送主体(アラカミリ川利用)  
 河川一トメアス一産組持船(90トン)週1回定期  
 便、アカラ郡営船、定期週1回、その他民間  
 の就航船が毎日2~3便有る(所要時間約10~  
 15時間、途中アカラに寄港)  
 空路一ニ社がそれぞれ毎日2回小型機(コココ)  
 就航、所要時間約25分  
 陸路一移住地幹線道路經由、ベレン~ブラジ  
 リア街に連結、ベレン~サンパウロと直結の  
 道路工事中72年11月に完成予定。

主なる地点の距離

ベレン~トメアス一棧橋	270 km (河川)
ベレン~トメアス一空港	115 km (空路)
トメアス一棧橋~トメアス一産組(クワロカ)	13 km
トメアス一棧橋~トメアス一空港	13 km
トメアス一棧橋~第2トメアス一移住地入口	35 km
トメアス一棧橋~第2トメアス一事業所	43 km
トメアス一産組一第2トメアス一事業所	32 km
第2トメアス一移住地入口~第2トメアス一事業所	5 km
第2トメアス一事業所~第2トメアス一移住地第2セ ンター宿泊所	2 km

(イ)生産物

主産物、ピメント(胡椒)、1971年生産量  
 7,200トン黒胡椒価格トシ当り800ドル

した場合、736万ドル(約20億円)  
その他、陸稻、マンショカ、カカオ、果物  
(ポシカン、ララジア、パイナップル、マモン  
バナナ)

特記 最近は第2作物として香料作物の栽培  
が検討されており、当団試験場、産組試験場  
を中心にバナラを初め数種の試験栽培がおこ  
なわれている。又廢園を利用したカカオ栽培  
が本格化し、昨年と今年で400千本が植付  
られた。

(7) トメアス  
産業組合

トメアス一経済の中核機能果す。組合員279  
名、ヒメインタ取扱高、トメアス一地区生産量  
の約5割(1972年度実績)

活動部門として、販売部(生産物販売)  
購買部(日用品食糧、農業資材取扱)  
農機具(車輛修理工場、ガソ  
リンスタンド経営)  
信用部、鉄工所、農事部  
肥料部、病院

この他ベレン、サンパウロ支店の外、ヒメン  
タ販売代理店を北米市場—ニューヨーク、サ  
ンフランシスコ、ヨーロッパ市場—ロンドン、  
ロッテルダム、ハンブルグ、パリ、南米市  
場—アルゼンチン、メキシコ、ペルー、コロ  
ンビア、干し、ウルグアイと世界各国に輸出  
(最近はソ連にも輸出している)

(8) 市 場

消費物資、生産物の99%ベレン経由  
流通機構の主力はトメアス一産組(ベレン、サン  
パウロに支店あり)

(9) 現地受入機関

ベレン支部、第2トメアス一事業所

(10) 生活環境

a. 受入施設

住宅建築まで仮宿泊所(収容所)、入植ロッテの  
最遠距離6km限度。

b. 郵 便

第2トメアス一当事業団事務所経由、ベレン  
郵便局へ組合員はトメアス一産組扱いも利用  
(日本からはこの速6~10日後本人の手元)。  
トメアス一港近くにはトメアス一郵便局有るも  
時間的に遅くなる。

c. 食糧、農業、資材、生活用品等の購入先  
米自給、その他トメアス一産相出張販売

d. 交通 入植地々区会(自治組織)運営によるトラック  
(1台)個人による運送業、トラック2台が運行  
されている。  
いずれも各自のロツテまで横づけできる。  
この他トメアス一から第二トメアス一移住地  
まで不定期ではあるが週二日位バス便があり  
また、自家用車、小型トラック、ジープなど  
が最近とくに普及し(第二トメアス一で約770  
台)お互いが協力し合って、交通の便をはか  
っている。

e. 治安 入植地内に派出所(第1センター、第2センター  
に各1)あり、警官各1名が常駐。

f. 移住地内  
施設  
助成金

1. 施設  
小学校 2棟(第1センター1, 第2センター1)  
教員宿舎 4棟( " 2, " 2)  
警官派出所 2棟( " " )  
宿泊所(収容所)3棟(第2センター2, 第3センター1)

2. 助成金

自治体育成費  
教育育成費  
治安維持費

行政事務費、交通費、人件費  
教師謝金並びに子弟奨学資金

警官謝金

(治安用オートバイおのり維持費)

保険衛生費

マラリア予防対策費、

救急薬品箱設置

診療所運営費

医師看護婦謝金

3. 土地代及び  
支払条件

当事業団(現地機関JAMIC Ltdaの代理)  
より分譲、現地到着後、当事業団支部の定め  
る範囲でロツテ選択

ア. 面積 1区画(ロツテ)25ヘクタール

イ. 価格 一括払230,000円、分割払い292,100  
円(1ロツテ、25ヘクタール当り)

ウ. 支払条件 一括払い一土地権は後日ロツテ面積確定登記の

うえ現地で手交分割払い一渡航前頭金23,000円当事業団に支払い、残金4年据置、5年均等年賦払い。(利息年12%)  
 当事業団現地支部に支払う(年賦金は売買契約締結日の為替相場で換算した伯貨一現地通貨建)

工. 造成工事

移住地内道路<幹線道路-有効幅8m-HL>送出家族数に  
 支線道路- 6m-HL 応じ造成測量

4. 所要資金

- ア、渡航手続費用 5人標準家族50,000円~80,000円
- イ、携行資金 現地入植時70万円以上(但し稼働力は異なる)
- ウ、機中雑費 若干(3~5万程度)
- エ、ペレニ市から入植地までの諸経費  
 家族数、携行荷物及びペレニ滞在日数等によって異なるが(5人家族)船賃、運賃、通関手数料など約5~8万円

5. 携行荷物と運賃

ア. 荷物

- ・農機具類
- ◎印は最も必要度の高いもの
- 印は入植後必要とするもの

	品名	数量	摘 要
◎	ドラム缶	1	現地にて使用度は高い
	ハンドトラクター	1	7~10馬力ディーゼル型けん引車付
○	発動機	1	6~10馬力カセニマー普及率が高く部品有
○	脱穀機	1	動力又は足踏
	噴霧器	1	手動、半自動又は全自動
	精米機	1	第二トノアスーには事業団貸与物件としてみる
	収摺機	1	ク
※※◎	穀材料機	1	経験者は持参すると有利
◎	ベルト	適宜	動力持参のものは携行のこと
◎	自動鋸	1	現地の木材の径30~60cmのものが多く、材質は極めて固い
◎◎	トウニ	1	現地産有……内地産と変わらない
◎◎◎	日本鋸	10	陸稲収穫用
◎◎◎	足バサミ	2	ヒメニク育苗に必要
◎	グラインダー	1	



◎	砥石	各種	現地では仕上砥石は入手困難
◎	ヤスリ	各種	鋸自立用に必要…現地入手可能(日本の2倍)
◎	巻尺	1	50mのもの又は間縄
◎	ポンプ	一式	井戸は通常15~20m. 深井戸用を必要
◎	滑車	1	井戸用
○	ビニールパイプ	30m	給水その他
	ツルハシ	2	いずれも現地購入が可能
	ホーク	2	
	スコップ	5	
○	秤(10kg, 100kg)	各1	台秤が望ましい(現地にある)
	斧、山刀、鋏	1	現地製の方が良い
	リカー又は荷車	1	予備タイヤ、チェーンを持参すること
○	テント	1張	大きい程良い

- 現在使用中のもの携行すること、機械器具の部品はヤンマー、クボタ、井関等のメーカー品が良い。
- \*必要あれば現地調達を望ましい。
- ・種子 - 自家用蔬菜類種子 少量携行便利(からし菜、つけ菜、ちしゃ、しゃんぎく、よもぎ、しそ、ふたんそう、にら、わけぎ、セリ、きゃべつ、だいこん、さといも、やまいも、しょうが、きゅうり、しゅうりょう、まくわうり、かぼちゃ、すいか、へちま、にがうり、はやしろり、なす、ゆうが、おとまと、とうがらし、いんげん豆、ささげ、ふじまめ) = 現地で入手可能
- ・農薬、肥料等 - 現地調達
- ・衣料類 - 布団、毛布、蚊帳等現在利用のもの携行。特に蚊帳、金網又はサラシ綱(細目1.8mm以下)2~3枚(5m x 6mのもの)必携

品名	数量	備考
◎ 小じん類		現在使用のものは全部持参すること(但し、厚手のものは不要)
◎ 毛布類	1人1枚	
◎ 蚊帳		目の細いものが良い
◎ 作業衣類	1人数着	長袖、長ズボン
◎ 地下足袋	1人数足	耕地作業に便利
◎ ゴム半長靴	1人2足	現地にあり、手持のものは携行
◎ 雨具類		手持のものを携行
◎ 子供用スリッパ		
◎ 綿製品下着	1人数枚	
◎ 女子作業スラックス		

◎長袖シャツ類  
 ◎半袖シャツ類  
 ◎セーター類  
 ◎ゴム草類  
 ◎シューズ類  
 ◎布地類

現地調達可能

作業衣用、下着を持参すると便利

◎印は最も必要度の高いもの

・日用品—現在使用のもの及び新規購入の場合、アルミ、プラスチック製品便利

品名	数量	備	要
◎飯釜	一式	釜数用の鉄輪と忘れないこと	
◎食器	類	ナイフ、フォーク、スプーン、茶碗類	
◎鍋	類	手持のもの、蒸器、フライパン、中華鍋	
◎バケツ	類	大、中、小各3ヶ位	
◎飯水鉄	2ヶ	筒輪	
◎石風	2ヶ	ドラム缶を代用しても良い	
◎ヤカ	2ヶ	大、小各1	
◎石樽	2ヶ	現地調達	
◎金調散	一式		
◎洗自	一式		
◎オートバイ		予備タイヤ、ムジコム、チューブ、空気入れも併せて携行するとよい	
◎子供用玩具	一式	72年4月船においては課税されていないが課税対象となる場合もある。持参すると便利。	
◎学用品	一式		
◎娯楽書		辞書、参考書	
◎懐中電		現地有、新たに購入の要なし	
◎ラジオ		プレーヤーがあれば便利	
◎電池		ソーラー携帯用1.5K位が便利	

・家具類—折たたみ式椅子、寝台、机、食器戸棚(無理して持参しないことと—現地調達が望ましい)。

・食糧品—入植当初1~2週間分位の食糧携行(米、味噌類は現地調達)、煮干し干魚、かん詰類(肉魚類)、のり、こんぶ、茶、その他、乾燥食品等

・医薬品類—救急箱は是非携行のこと  
栄養剤、肝臓薬、風邪薬、熱さまし、胃腸薬、皮膚病薬、虫さされ、ペニシリンナンコウ、脱脂綿、ほうたい、ガーゼ、ばんそうこう、ナリ紙、衛生バンド、体温計、腸器、注射器(5cc、10cc、20cc) 氷のう、ピンセット、メス、氷マクラ等  
※薬品については常用薬以外は当座用のみ持参のこと。

・大工道具等—カンナ、ノコギリ、ノミ、キリ、指金、墨つぼ、ブリキ、マガリガネ、釘、防虫鋼、その他現地調達可能。

イ. 運賃 無料扱い 大人(12才以上) 1人 60才  
子供(11才~3才) 1人 30才  
幼児(2才~0才) 1人 15才  
超過運賃 上記制限超過荷物1才 666円  
(註) 1才とは一尺立方の容積で重量関係なし  
(例: 大型柳行李1個約6才、石油缶1個2才)

ウ. 携貨 1世帯最高10,000ドル(約360万円) 但しこれ以上携行の場合、日本銀行の特別許可必要

## 6. 空港から入植まで

### ア. 空港到着時の注意

- ・手荷物—空港での税関検査あり、荷ほどこ、梱包を容易にして内容、個数等熟知のこと
- ・手荷物—各自携行、大型は船倉荷物として船会社に積下依頼
- ・入国査証検査時—パスポート、種痘証明書、レントゲン写真等各自携帯
- ・空港での盗難に要注意
- ・船倉荷物受領日数3~7日(当座の炊事道具、食器類、毛布、洗面道具等手荷物として持参することを要す)

○荷物携行証明書記載個数は旅行中荷ほときした郡渡証明書  
の個数と合せて梱包のこと。

イ、トメアス一港までの船便  
トメアス一産組所有船舶で運搬、各自も同船に便船

### ア、ピメント(胡椒)と栽培法

性状—ピメントは胡椒(Piperaceae)に属する多年性  
熱帯作物、茎は 状、節を有し、葉は卵形で先端  
尖り、表面光沢、濃緑色、長さ10cm位、果実約5  
mm前後の漿果で50粒以上の多数の果実がつく  
(繁殖は挿木)

以下は1本当りの平均生産収量  
初収穫 2年目 200g~500g

3年目 2kg

4年目 4kg(成木)

トメアス一地域の栽培方式で最盛期5年生~10年生

ピメントは多肥栽培に耐え集約化栽培に適し、栽  
培法如何で1,000本当り8トニ(平均1本当り  
8kg)収穫できるが平均4kgである。

樹令20年と云われるが、経済年数は13~15年。

用途—調味料(その他薬用、化粧品等)

1964年末、トメアス産組、鐘紡、高砂香料の  
三者合弁でピメントオイル抽出工場が試験操業開  
始、香りの成分、オイルエッセンシャル、辛味の  
成分、オレオレジン抽出、日本向け輸出、新た  
な用途と市場を開拓中である。

市場—ブラジル産出年間約1万~1.3万トン、80%を  
輸出している。

大部分アマゾン河流域から産出(うちトメアス一  
が全体の70%)

ピメントは国際品、決済はドル建

※参考—ピメントの年度別価格表(ペレン支部業務月報より)

1966年 630~850

1967年 485~630

1968年 480~610

1969年 480~540

1970年 730~980

1971年 810~890

1972年 890~950

1973年 950~1600

※ピメント海外相場推移(直積、FOB、ペレン・M/T・US\$)

## ア. 育苗

苗木は挿木、地上1.5m以上から苗木を作る。  
収穫後の10月末~11月に上記部分を剪定(ハサミ)で5節以上を1本として切り取り、苗床に早植方法—45°程度、間隔15cm×10cm、地下に3節埋め順起伏込み、ha当り苗床面積10m<sup>2</sup>、幅1.20m位、直射防ぐ日覆作り、時々灌水湿気を保たせ、根、芽の発生促す(苗床期間2ヶ月)

良苗の条件

- 節 5~7節
- 太さ 中指大
- 長さ 30cm (長さより節数重要)
- 色 青くて少々木化したもの
- 根 根群多く特に直根のあるもの
- その他 1. 無病であること  
2. 苗木は4~6年目の最盛木がよい。

ha当り所要本数1,000本(その他予備苗200本位)

## イ. 植生

圃場の準備—10月末山焼完了、畷焼作業、雑木等整理(数年間機械の導入無理)  
2.5m×2.5mに目印の木を立て深さ50cm、幅40cm、長さ40cmの穴に3mの支柱を立てる。

苗木の定植—苗床より苗木を1本ずつ根を切らぬ様丁寧に振りあげ、籠又は1輪車で圃場に運び西日の直射日光をさけ支柱の東側に植える。  
頂芽は支柱に軽くあて、吸盤着根(気根)が支柱にしっかり附着するようにする。(定植後、櫛子葉又はカバッコ(木片)で日覆する)

定植時期—乾燥期に十分耐えられるよう雨期との関係を考慮し、12月下旬から1月末までに完了。

土地条件—適応性強く酸度5.8~6.5が適當、粘土地砂質地ともによく生育す。  
(緩傾斜のある排水良好な地形最適—溜水に極めて弱い)

## ウ. 管理

整枝—主蔓及び亜主蔓2本の3本仕立、主蔓は初年度で支柱の高さまで(2.5m)成育

するよう管理  
(収量を考慮し、蔓の各節から結果枝を  
発生させる)。整枝作業は年度に完了

施肥—土壤条件、生育程度、生産量等により  
異なり、基本的ピメンタの施肥基準は  
確立されていない。夫々の篤農家的施  
肥が慣行  
初年木は元肥せず、活着後生育状態で  
尿素を分施。1本当り尿素 80g、燐燐  
100g、塩加 50g程度(元肥燐燐 塩加)  
施肥すること望ましい。  
酸性土壤であるため(PH 5~5.5程度か  
多い)酸性肥料をさける(山焼後、木灰に  
より酸度矯正が行なわれる)  
骨粉も遅効性燐酸肥料として利用する  
農家多い。

成木1本当り施肥料	尿素	250g
	燐燐燐	500g
	塩加	300g
	棉実粕	2,000g

方 法—肥料穴 60×40×40cm(深さ) 枯葉、緑肥  
粕、化学肥料配合のものを表土とよく  
混ぜて穴に入れて表土下に覆土する  
(雨期の1月、4月の2回実施、但し施  
設穴堀りは根の損傷が多く病害発生の  
原因ともなるので除けた方がよい。  
表面に散布施肥を軽く覆土する)。

除 草—年間6~8回実施(雨期明け完全除草  
の場合乾期中、必要なし)

被 覆—乾燥防止にピメンタの根元に稻草、草  
等敷く。(マルチングは管理作業で重  
要)  
有機質の供給考慮し禾本科 Capin  
Imperial が大部分でピメンタ栽培面  
積と同面積の草地栽培を必要

葉 布—植木苗木に病原菌なく排水良好な地形  
に植えたピメンタは普通の場合病害発  
生の危険性は低く、ほとんど不要。

炭疽病、露菌病の罹病株には Cupraviti azul等のホルド一液散布、土壤生樽菌、フザリウム被害の場合、現在のところ根沓の方法なく採取焼却、跡地を石灰で消毒する。また、線虫との複合感染もあるので、拓殖作物として、マリーゴールド等を間作するのむ一方法である。

虫害、サウバ蟻防除法—ローシャトックス(有機燐剤)、ニトロジン等が有効。

マブラムシにするウイルス病発生の転播—パレフェクチン

収穫調整—雨期2~4月に開花受精、通常約5~6ヶ月後の7月~10月収穫  
普通栽培による生産量(製品)

2年木	1本当り	500g
3年木	〃	2,000g
4年木	〃	4,000g

1. 摘果—果粒が充実し二粒、三粒黄色くなったら房ごと摘みとる。成木1本当り収穫生実12kg
2. 脱粒—動力脱粒機によるが、生産量の少ない時は直径約70~90cmの金タライに半量程入れ労働者が足で踏み脱粒。
3. 湯煎—脱粒後80℃~100℃熱湯に1分前後浸す(乾燥早め貯蔵性高め、色沢を良好にする)
4. 乾燥—天日法—裸地に筵を敷き、その上に布シートまたはプラスチックシートを敷きピメンタ薄く置き、日中再三攪拌する(2~3日)  
火力乾燥法—1日位天日乾燥後、乾燥機に入れ6~8時間で乾燥
5. 調整—乾燥後唐箕選し、50kg入り袋1俵とし生実が仕上げる歩留りは普通30%前後
6. 白ピメンタの製法—果粒が赤く熟したら房を摘みとり袋詰めとし川水に10日間位浸し、のち引上外皮と果肉をとり除き、水洗、乾燥させ歩留りは生実の25~27%

8. 入植から営農軌道に入るまで (例)

必要最低資金収支表 (5人家族の場合)

年度 種別	入植年 (4月)	2年目	3年目	4年目	5年目	
支出の部	住宅費 (4773ける)	150,000円	入植時建てた住宅は経営状況勘案して増改築を行なうとよい			
	開墾費 (4ha)	200,000円	50,000円 (更に2ha開墾)	左に同じ	左に同じ	左に同じ
	生活費	100,000円	120,000円	150,000円	200,000円	250,000円
	作業場建築費	—	—	80,000	—	—
	植付準備費 ピニン9苗 2,000本 及び支柱設備	150,000円	—	—	—	90,000円
	営農費	—	180,000円 (農具購入 費等)	250,000円 農具等購入 及びピニン9 2,000本の 管理諸経費	500,000円 左に同じ	600,000円 ピニン9 3,000本の 管理費等
支出の部	600,000円	350,000円	540,000円	750,000円	990,000円	
収入の部	陸相・そ菜 自給程度	80,000円	80,000円	80,000円	80,000円	
	ピニン9	—	—	420,000円 (1トン収穫)	960,000円 (4トン収穫)	1,920,000円 (8トン収穫)
	収入の計	—	80,000円	320,000円	1,040,000円	2,000,000円
	支計—42%	△600,000円	△270,000円	△220,000円	290,000円	1,010,000円

(註) 1. 最低賃の変更、為替の変動等の要因(円の円り上げ等)によって、ここ3~4年邦貨換算の場合上記円額(基本的数値)は変化することがある。



2. 資金的余裕ある場合、3~5,000本植付を推めた。

3. 4年目に完全に営農は軌道に入る。

1. ピメント値段1トン当り1,000\$の場合(267,000円)のうち販売手数料として運賃、袋代、組合費等差引かれる。

2. 当初耕地4ha開墾、ピメント2,000本植付、5年目更に1,000本増植(自給を考えて陸稲を植えるより)

3. ピメント1本から2年目200g収穫(200g×2,000本)  
ピメント1本から3年目2kg収穫(2kg×2,000本)

4. 現地融資現状60万程度実行、携行資金70万程度あれば上記表にかかげた規模の営農経費は充分可能(5年目で完全黒字経営)

### 5. 上記表の説明

ア. 入植年携行資金70万円のうち60万支出するが10万円は翌年の営農資金とし繰越す  
 $70万 - 60万(投資金) = 10万(繰越金)$

イ. 2年目、35万の営農を行なうため10万円の繰越金を差引いても25万円の借入金必要、但しこの年陸稲8万円収入あり実質上借入金17万円。  
 $35万 - 10万 = 25万(投資金であり借入金)$   
 $25万 - 8万(収入) = 17万(2年目実質上の借入金)$

ウ. 3年目、54万円資金必要、ピメントと陸稲より32万円収入あり、差引き22万円の借入金必要  
 $54万(投資金) - 32万(収入) = 22万円(借入金)$

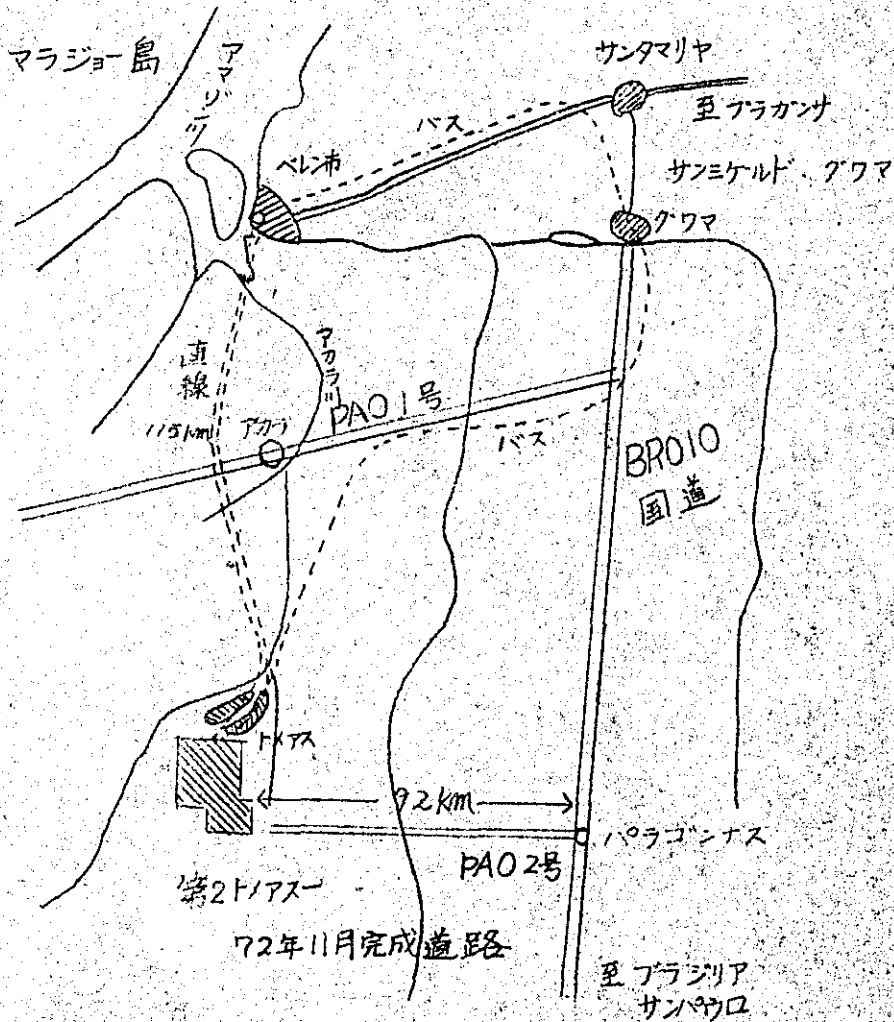
エ. 4年目、75万円資金必要、ピメントと陸稲より104万円収入、差引き29万円黒字。  
 $75万(投資金) - 104万(収入) = 29万円(収入)$

オ. 5年目、99万円資金必要、ピメントと陸稲より200万円収入、101万円黒字。  
 $99万(投資金) - 200万(収入) = 101万(5年目借入金)$   
この収入で借入金返済に当ててもよいがそのまま翌年の営農資金とし、資金繰りに余裕出た時期に借入金返

済に当てたらよい。

- (註) 1. ア～オの計算は家族5人の年間生活費差引額  
2. ピロメントの値段は年により変動がある。  
3. 携行資金多額であれば農業経営順調であるが最初から大きく投資することは危険  
4. 人夫の雇用賃金は別記の農収支概況参照

9. 第二トマスー位置図 (略図)



10. 北伯雇用農青年入植状況

ア. 年度別雇用農青年受入数 (1973年4月現在)

1966年	1	名
67年	33	名
68年	17	名
69年	18	名
70年	9	名
71年	25	名
72年	18	名
73年	30	名
計	151	名

イ. 雇用農青年の定着状況

独立	45名	(農業従事者29名、商業、その他サラリーマン 16名)
雇用中	63名	(雇用中63名の中には配耕先を変更した者も若干名いるが支部管内での転耕はこれに含めた)
分益	1名	
管外転出	24名	
帰国	17名	
死七	1名	
計	151名	

11. 雇用農青年独立への留意事項

- 当地の雇用契約期間は3ヶ年であり、この期間を特別な出費もなく過す場合は耕地購入費は就労所得(4,000.00~5,000.00クルセロス)によってまかなえる。しかし、独立に際して雇用主の資金援助は望めないで、その資金は携行資金、就労所得、内地送金、事業団融資などによることとなる。従って日本を出発する前にこの点を充分指導する必要がある。
- 雇用されてから3年目頃から独立のための耕地を求め、日祭日を利用してある程度の営農も前進させること。

この場合、雇用場所より近距離に耕地を求めると雇用主の許可を得て、車あるいは農具などの借用が容易で経済的な利点が多い。

現在独立している青年の大部分はこの方法によった。

- 独立後一応ピメンタの植付などが完了すれば、耕地に常住する必要がないので耕地管理は人夫に任せ、旧パトロンあるいは近隣農場に就労し、自己の生活費および人夫賃を稼ぎながら1~2年後に自己耕地に独立定住する。(この1~2年間を半独立時代という)
- 完全独立後もピメンタの間作 あるいは開墾剰余地にマラクシャメロン、西瓜、そさいなどを栽培し、ピメンタ園管理費の一助とする。
- 当地は主作物がピメンタであるため分益農制度は殆んど見受けられない。
- 独立には上記経過をたどるピメンタの植付本数は雇用中に1,000~2,000本、半独立中に2,000~3,000本。この他に携行資金もあり、また内地から送金を受けられる者はその資金の額にみあった範囲で、1,000~3,000本程度植付済の既成耕地を購入する。この場合の価格は6,000~10,000クレビロスである。

## 12. 未独立者の見直し

現在雇用中の青年全員が独立を目指して土地購入の準備などを積極的にすすめている(雇用1年位で独立した者もいる)。中には研修不足、社会事情などに充分なれないまま、独立をあせって携行資金を有効に活用出来ない者もいるので、独立の時期、場所の選定などについてはパトロン、先輩等の意見を充分徴し、また、当支部に相談を受けるよう指導することが必要である。

### ア. 独立への心得と土地取得

トメアスー地区においては現地伯人より小規模の既成耕地購入も容易であるが、パトロンから近距離には購入可能な耕地は少なくなっている。

ベレン近郊においては既成耕地の購入は困難であるが、使用中の農場から近距離に土地取得が容易であるため半独立より完全独立への移行も容易である。

### イ. パトロンの青年受入希望数(年間)

トマスー地区 10名  
 ベレン地区 15名  
 マナオス地区その他 5名

ウ、他管内よりの転入者状況

他管内、主としてサンパウロ 地方からの転入して来た青年の数は約20名に達し、その内5名は独立し、当団の融資も受け順調な進展をしている。残り15名程度の者はベレン近郊農場あるいは市内に就労中である。

エ、アマゾン地域における独立の有利性

耕地が安く容易に入手出来ること、また主たる栽培物が輸出作物であるピメントであるため地域流通機構に左右されず、小規模栽培者であっても大規模栽培者に圧迫されることのないため営農が可能であり、小資本での独立が容易である。

13. 既独立青年の営農概況

ベレン近郊サンタイザベル、1967年4月着伯、独立後3年の者

ピメント植付本数

1969年	1,300本	成木	雇用中
〃70年	1,200本	成木	〃
〃71年	3,000本	2年木	独立後
〃72年	3,000本	初年木	〃
計	8,500本		

1972年度の営農収支概況

収入の部		支出の部	
ピメント(7t)	28,000.00	人夫賃代	12,000.00
野菜	3,000.00	肥料代	6,000.00
融資 (管理費、銀行より)	7,000.00	管理費	6,000.00
		新植資金 (3,000本)	6,000.00
		生計費	6,000.00
		余剰金	2,000.00
Cr\$	38,000.00	Cr\$	38,000.00

1973年度営農収支見込

収入の部		支出の部	
ピメニタ14t	84,000.00	人夫賃	22,000.00
		肥料代	12,000.00
		管理費	8,000.00
		生計費	7,200.00
計 Cr\$	84,000.00	計 Cr\$	49,200.00
	差引余剰金	Cr\$	34,800.00

7アヲナ1ha当り営農収支 (600本) ヘルン支却調へ

8.62/年 (単価 CR#)

区分	項目	単価	初年度		2年度		3年度		4年度		5年度		6年度		7年度		8年度以上		
			数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
収入	販売収入								60kg	150kg	240kg	480kg	480kg						精製品, 産毛 油. 40 <sup>CR#</sup> /kg
	肥料代		1,950		2,180		2,180		2,280		2,580		2,580		2,580		2,580		
	農薬代		-		150		230		300		300		300		300		300		
	補助材料費		900		-		-		-		-		-		-		-		左護用竹材
	小農具費		180		150		140		180		190		190		210		210		
	種苗費		714		-		-		-		-		-		-		-		
	修繕修理費		55		60		60		100		100		100		400		100		
	労働費	20	54	1,080	82	1,640	83	1,660	99	1,980	110	2,200	118	2,360	140	2,800	140	2,800	
			(測量4 机穴12 施肥20 除草16 補種2)		(施肥24 摘茶6 前定整枝4 除草48)		(施肥20 摘茶9 前定整枝6 除草48)		(施肥22 摘茶12 前定整枝8 収穫9 除草48)		(施肥36 前定整枝8 収穫28 除草48)		(施肥36 前定整枝8 収穫26 除草48)		(施肥36 前定整枝8 収穫48 除草48)		(施肥36 前定整枝8 収穫48 除草48)		
	計		4,879		4,180		4,270		4,840		5,370		5,530		5,990		5,990		

ヒメマダ 1ha 当り 管農収支 (1,000本)

ベレーニ支都調心 8.62/年 (単位 CRB)

区分	項目	内訳	単価	初年度		2年度		3年度		4年度		5年度		6年以上	
				数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
収	販売収入		② 9					200kg	(生600kg)	200kg	(生600kg)	3.500kg	(生10,500kg)	4.000kg	(生12,000kg)
								1.800		1.800		31.500		36.000	
支	肥料代				300		300		1.630		3.150		4.660		4.660
	農薬代				100		250		550		550		550		550
	諸材料費		① 1.40	支柱 1,000本	1.400		-		-		-		-		-
	小農具消耗費				400		500		600		1.800		1.000		1.000
	苗代		② 1.40	1,000本	1.400		-		-		-		-		-
	販売手数料 (含運賃)		20%		-		-		360		360		6.300		7.200
	支柱立脚費				1,000		-		-		-		-		-
労賃			① 15	5人 (定礎)	75	100人	1.500	119人	1.785	232人	3.480	316人	4.740	346人	5.190
出						(除草25 施肥32 敷草20 結果20 消毒2)		(除草45 施肥33 敷草20 消毒8 収穫9 出茶調整4)		(除草45 施肥33 敷草20 消毒8 収穫86 出茶調整4)	(除草45 施肥33 敷草20 消毒8 収穫150 出茶調整60)	(除草45 施肥33 敷草20 消毒8 収穫170 出茶調整70)			
	計				4.675		2.550		4.925		9.340		17.250		18.600

17年分  
1人当り 70kg



1  
2

0  
0